

# とかす力（八木重吉の詩を愛好する会会報）

事務局（連絡先）〒277-0014 千葉県柏市東 3-8-34 柏第一宣教バプテスト教会

\*\*\*\*\*天利武人（教会牧師）電話 04-7164-9159

（会報編集、ホームページの連絡先）〒270-1406 千葉県白井市中 205 小林正継

\*\*\*\*\* Eメール [kmat27aiko@gmail.com](mailto:kmat27aiko@gmail.com) 携帯電話 09061674553

☆ 第 11 号

☆2015年(平成27年)

9月26日 発行

## ★今年の茶の花忌の案内

2015年の茶の花忌は、詩人で朗読もされる八木幹夫氏が「八木重吉の詩は何故人の心を」という演題で、また、相模原市の城山で＜地域の歴史こぼれ話を語る会＞で活躍されてきた田中次雄氏が、「八木重吉の詩碑を訪ねて」という演題で、お話をしてくださいませ。八木氏は相模原市の生まれで、八木姓をもつ著名な詩人、田中氏は、生まれ育ちは兵庫県西宮（詩碑「幼い日」がある）で、重吉への愛着を持って詩碑を巡られた貴重な話を聞くことが出来ると思います。

折しも、今年は、茅ヶ崎の詩碑「蟲」の建立10周年、柏の詩碑「原っぱ」建立30周年に当たり、共に重吉を愛する組織をもっており、田中氏の詩碑の話の後に、茅ヶ崎、柏の詩碑の現状や活動を、序幕式を催した者として短く語ることも予定しています。八木重吉の愛好者である皆様の参加を期待しています。



建立10周年になる  
茅ヶ崎の詩碑「蟲」



建立30周年になる  
柏の詩碑「原っぱ」

当日の催しの流れは、

- 13:00 ～13:30 墓前でのお話
- 13:30 ～15:00 講演 八木幹夫氏及び田中次雄氏  
茅ヶ崎と柏の詩碑の現状報告  
奈良操氏による歌唱

となる予定です。

なお、当主の八木藤雄氏の体調は昨年同様ですが、茶の花忌に向けて、当日顔を出して挨拶したいと努力されています。八木重吉の詩と記念館を守りつづけたいという情熱にあふれていますので、愛好者の皆様の祈りや、心の中での励ましをお願い致します。

## ★茅ヶ崎の詩碑「蟲」建立10周年行事の案内

平成17年に、大きなゆかりの地でありながら詩碑が無かった茅ヶ崎に詩碑「蟲」が建立され、愛好者の悲願が達成されました。そして重吉が入院していた、当時の南湖院（現太陽の里）を始め、茅ヶ崎の海岸伝いには、国木田独歩や開高健等の碑もあり、茅ヶ崎市も協力して文化運動に力を入れています。今年が10周年で、茅ヶ崎八木重吉の会の主催により、以下のように記念行事が開かれます。

日時：10月4日（日）午後1時30分～4時30分

場所：茅ヶ崎図書館 第一会議室

日程

詩の朗読（会員）

講演「八木重吉の詩魂」（川井盛次氏）

詩の朗読「わがよろこびの頌歌はきえず」（栗林さとし氏）

合唱 「蟲」（混声合唱団「KAYA」）

講演「八木重吉におけるころとかなしみ」（苅部幹央氏）

参加費（資料代）300円

★柏の詩碑「原っぱ」建立30周年行事の案内

昭和60（1985年）年に「八木重吉の詩を愛好する会」が結成され、その年に詩碑「原っぱ」を建立。その後、いろいろな活動を行いながら、全国の輪を結び、後世に資料を残し、提供するために活動してきた会の主催で、次の内容で30周年記念会を持ちます。

日時：10月31日（土）13時～15時半

場所：ホザナ幼稚園（柏市東3-8-34）

内容

詩碑30年の思いを語る（事務局天利武人、柏の愛好者等）

講演：「八木重吉の詩作と信仰」（茨城キリスト教大学藤山修氏）

独唱：重吉の詩の歌唱と語り（ソプラノ歌手 金野実加枝氏）

入場無料、プレゼントあり

★愛好会に寄せられた投稿紹介

八木重吉について

加藤正三郎

八木重吉は、生涯、自分の信仰を自らに問い、神への献身の為に燃えて詩を書き続けました。晩年になって、ついに信仰の核心（救い）をつかんだと言えるのではないのでしょうか。つまり、家庭的には、愛妻の登美子夫人、子供の桃子、陽二に囲まれ、至福の中にあり、その幸せをも歌っていますが、彼の一途な、キリストへの献身の念にどうしても達し得ていないという自覚、それに伴う自責の念から来る「かなしさ」と「寂しさ」をより強く歌っていました。

重吉は、ついに己を主にゆだねまつることから来る平安を手にしたのではないのでしょうか。又、同時に、重吉は聖霊体験をし、神の子によく似たという喜びを得たのです。しかし、彼は素晴らしいことに、そこにとどまることなく、たとえ聖霊体験をしても罪（例えば、隣人とのかわりに於いて生じる、人を憎むこと等）が

八木重吉記念碑建立十周年

茅ヶ崎ゆかりの人物は、城山三郎・国木田独步・前川佐美雄・榎田眞男・山田健彦・八木重吉・平塚らいてう・藤岡樹成・小生夢坊などここにあげきれないほど多い。今年はそのゆかりの人物のひとり、八木重吉の記念碑が建立されて10月で10周年になります。そこで八木重吉記念碑建立10周年記念の催しを茅ヶ崎八木重吉の会が下記の通り行います。多くの方のご参加をいただければ幸いです。

期日 2015年10月4日（日） 午後1時30分～4時30分

会場 茅ヶ崎市立図書館 第一会議室 ☎0467-87-1001

朗読（1） 太田さよ子 亀井理世 川井盛次 小久保美子  
原 友信 吉住裕子 吉村 薫 川井盛次

講演 八木重吉の詩魂

本会会長・歌人 川井盛次

朗読（2） わがよろこびの頌歌はきえず  
朗読家（長野県在住） 栗林さとし

<休憩>

合唱  
混声合唱団「KAYA」による重吉詩「蟲」の合唱

講演 八木重吉における「ころ」と「かなしみ」  
八木重吉の研究者 苅部幹央

参加費 300円（資料代等） ◆当日先着順 72名

主催 茅ヶ崎八木重吉の会（元・八木重吉の記念碑を建てる会）

後援 茅ヶ崎市

問合せ先 川井盛次（☎0467-83-2615） 亀井理世（☎0467-51-3758）  
吉村 薫（☎0467-51-3140）

柏の八木重吉の詩碑「原っぱ」建立30周年記念会

講演及び詩の歌唱



時：10月31日（土）午後13:00～

13:00 「原っぱ」30周年に寄せて（事務局天利武人、柏の愛好者等）

14:00 講演「八木重吉の詩作と信仰」藤山修氏（茨城キリスト教大学講師）

15:00 歌唱（八木重吉の詩の独唱）金野実加枝氏（ソプラノ歌手）

15:30 閉会

場所：ホザナ幼稚園（柏市東3-2-5 JR柏駅東口徒歩15分）

\*参加者には、詩碑「原っぱ」の解説冊子と全国にある詩碑の絵はがきを贈呈（また『柏の詩人八木重吉』を持っていない方には、在庫のある限り贈呈）

入場無料（参加申込みや問い合わせは下記へ）当日参加可

事務局 電話 04-7164-9159（住所〒277-0014 柏市東3-8-34）天利武人 か  
Eメール kmst27aik@icloud.com（八木重吉の詩を愛好する会 専用メール）か  
〒1管理 小林正隆【09061674563】へ

主催：八木重吉の詩を愛好する会

●● 後援：柏東ロータリークラブ ●●

◆◆◆◆◆ 柏駅東口から会場までの地図→



残る事を知っており、陶酔的で自己完結的な神秘体験・聖霊体験への逃避が無意味であり、無力なことを重吉は自覚していたのです。それは神から離れた「人間世界に埋没した愛」であり、枯渴を免れないと観破し、常に、祈りを通したキリストとの霊的交流（交信）、すなわち、人（己）と神との緊張関係を保つことが大切であると説いています。いわば、人（己）と神との「垂直」の交流は、隣人への「水平」の奉仕（すなわち、隣人を愛する事、イエスを伝道する事）と切り離せない事を自覚していたのです。

さらに、重吉は神との一体化を実感する体験をしたのです。私は、ここに至って、重吉のキリスト信仰は、その頂点に達したと言えらるると思うのです。

神と家族を愛し、神と家族に愛されているという充足感を持つことができた重吉は、二十九歳という短命ではありましたが、幸せな詩人であったと思います。重吉は、臨終のまぎわで、神の名を呼び、登美子夫人に「とみこは可愛い」と言って、天に召されたのです。彼の詩の魅力は、ひたむきで一途な心、素朴で透明な心から溢れる光が放たれているところにあると思われまゝ。

## ★八木重吉関連の研究記事紹介

他選詩集として3番目に編集された詩集『神を呼ぼう』の意義について、仙台に住む愛好者、今高義也氏が『福音と世界』（新教出版社）の2014年2月号に掲載した記事を紹介します。

### 『神を呼ぼう』

今高義也

内村鑑三門下の鈴木俊郎によって編まれた八木重吉詩集。1950年3月の刊行です。生前重吉が自ら選んだのではない（他選詩集）としては、山雅房版（1942年）、創元社版（1948年）に次いで3冊目でした。この詩集が世に出た意義は、文学者（詩人）の視点からではなく、初めてキリスト者の視点から重吉の詩が選ばれ、編まれたことにあります。「作詩の年代にとらわれず、内容にしたがって分類を試み」（鈴木「跋」）たという編集方針も、他にはみられない特徴です。当時「こんなに平易に純粹に、らくらくと信仰をうたった詩にだれも接したことがなかった」こともあり、『神を呼ぼう』はキリスト教界に静かな反響を巻き起こし、「クリスマス・プレゼントに、洗礼記念の贈りものに」さかんに使われました（関茂『八木重吉 詩と生涯と信仰』新教出版社、1965年）。〈「信仰詩人」八木重吉〉の浸透に、『神を呼ぼう』の果たした役割は大きかったというべきでしょう。確かにこんにち編年体の『八木重吉全集』（全三巻、筑摩書房、1982年）を知る者の眼からみれば、『神を呼ぼう』における重吉詩の「内容」による分類（「神・キリスト」「自然」「心」「家族」「絶筆」）は、御影時代の初期・前期作品と柏時代の後期作品、そして〈病床ノオト〉時代の作品が《混在》しているとの感を否めないかもしれません。しかしそれが「この詩人のこころを表すに善き方法であった」（前掲「跋」）という編者の言葉もまた、真実を衝いているように思われます。そもそも詩は、その一つ一つが独立した作品として存在しているのであって、詩人の伝記的背景とは切り離して自由に味わい得るものであるはずだからです。例えば次のような作品――

昼の月

冬の青い空に

半分の月がかかっている

風に吹かれて今にも落ちそうだ

しかしよく見れば

その月の何という白さ 力づよさ

（『神を呼ぼう』「自然」の部）

○〔無題〕

一步踏みいだすのさえ

容易なわざではない

ちがった一言を云うのさえ

此の社会ではむずかしいのだ

でも 私はゆこう

(同「心」の部)

いずれも無名の作品ですが、〈弱げでありながら強靱〉な、〈凡庸なようでありながら模倣し得ぬ〉あの重吉詩独特の風貌が、新鮮な印象をもって迫ってきます。いわゆる〈信仰詩〉のイメージや、作詩の年代・重吉の伝記的背景にとらわれず、読者の視点から自由にその詩作品の「こころ」を味わう、そのような《読み》の経験の中で、おのずとキリストや信仰についても思いを向けしめられる——『神を呼ぼう』という小さな詩集は、そのような不思議な力をこんにちも静かに<sup>た</sup>湛えているように思われます。

### ★あなたの「八木重吉との出会いとその詩の魅力」原稿、継続募集中。今回第2冊配布。

皆さんの、愛する重吉に対する思いを原稿にしてください。ファンの思いを後世に残すという目標で企画していますので、続けて募集します。今回は第2冊を発行、配布します。

(募集) 題:「八木重吉との出会いとその詩の魅力」

(題は多少ずれてもかまいませんが、あなたが八木重吉の詩に感動した思いや、重吉関係者との交流などの思い出など、後世に残していきたい内容を期待します。)

字数: 2000字程度(原稿用紙5枚程度、パソコンのワード歓迎)

締切: なし(随時お送りください)

送り先: メール ([kmat27aiko@gmail.com](mailto:kmat27aiko@gmail.com)へ) か

郵送で 〒270-1406 千葉県 白井市 中205 小林正継 へ

### ★ホームページ案内

昨年「八木重吉の詩を愛好する会」のホームページを開設しています。八木重吉の案内と、愛好会の案内と、大きく左右に分けて情報を発信(提供)し、また連絡欄を通して全国の愛好者と情報を共有していきたいと思っています。ぜひご利用ください。

ホームページのアドレスと、管理者への問い合わせや情報提供のためのEメールアドレスは以下です。

ホームページアドレス <http://www.yagijuaiko.com/> (作成途中の部分があることをご了解下さい)

Eメールアドレス [kmat27aiko@gmail.com](mailto:kmat27aiko@gmail.com) (管理者小林正継)



2つの「素朴な琴」

←八木重吉生家  
(町田市相原町)

小山田桜台集会所脇→

